

# AJEQ ニュースレター

## 春季号（日本ケベック交流 40 周年特集）

日本ケベック交流 40 年：小畑精和初代会長  
インタビュー要旨が HP と冊子に掲載されました：宮尾尊弘理事  
日本とケベックでのインタビューの抜粋(40周年ブックレットより)  
AJEQ研究会報告：小松祐子理事

# 日本ケベック交流 40 年：小畑初代会長

**今** 年 2013 年は、ケベック州政府在日事務所設立 40 周年にあたります。40 年前、1973 年は第一次オイルショックが始まった年です。1960 年代に、日本は高度経済成長を、ケベックは「静かな革命」を経験し、近代化を果たした早々に試練を迎えたこととなります。

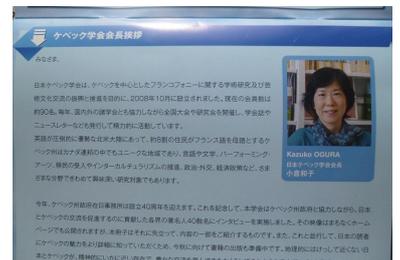
先進地域の仲間入りを果たしたケベックと日本は、ともに閉鎖的で、他者が理解できにくいことで有名でした。そうした両者が、オリンピックや万国博覧会を通して、外に開かれていく時代に州政府在日事務所が東京に開設されたのです。

最初の試練を乗り越えた日本とケベックは、その後国際社会で重要な役割を果たし、最近では特に文化面で大きな存在感を発揮しています。例えば、日本の漫画やアニメ、またケベックもサーカスなどショー・ビジネスの分野で世界を席巻しています。

資源があり人口の少ないケベックと、その逆の日本とは確かに異なる点がめだちます。しかし、超大国の傍らでいかにして独自性を発揮していくのか、グローバル化とローカル性をいかに両立させていくのかなど、共通の課題もたくさんあります。お互いに学び、協力し合えるところが意外に豊富なのがケベック研究の魅力でしょう。

日本ケベック学会では、日本ケベック 40 周年の機会に、州政府と協力しあって、日本とケベックで総勢 40 数名にインタビューを行い、そのビデオをウェブ上で公開する準備を進めています。また、40 年間の日本ケベック交流を振り返るとともに、日本の多くの人にケベックのことをよりよく知ってもらうため、今年 9 月に単行本『遠くて近いケベック』（仮題）を御茶の水書房より出版する予定です。

40 周年を機に日本におけるケベック研究がますます発展することを祈っています。（小畑精和 AJEQ 初代会長）



上 記念冊子の表紙、中 小畑会長挨拶  
下 ロベール・ルパージュ氏のページ

### 日本ケベック学会(AJEQ)とは

「日本ケベック学会」(AJEQ)は、日本でのケベック・フランコフォニーに関する学術研究・芸術文化交流などを振興し推進する学会です。ケベックやフランコフォニーにご興味のある方の参加をお待ちしています。

学会活動の詳細は以下のホームページ(HP)とブログをご覧ください。  
HP: <http://www.ajeqsite.org/>  
ブログ: <http://ajeq.blog26.fc2.com>

## インタビュー要旨が HP と冊子に掲載されました

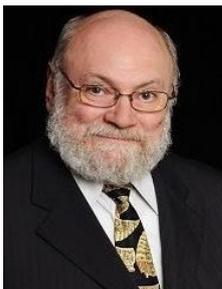
<http://japon-quebec.com>

この「日本ケベック交流40周年記念HP」には、昨年8月から12月までに日本とケベックで行われたインタビューや対談などの要旨とビデオがアップされています。詳しくは以下の通りです。

- 1) Québec-Japon: シャロン代表のインタビューや講演のビデオ(フランス語)へのリンク
- 2) Québec: ケベック側で行われた26人のインタビューの要旨(日本語訳)
- 3) Japon: 日本で行われた20人のインタビューの要旨(日本語、一部フランス語訳)
- 4) Japon-Dialogue: 日本で行われた3つの対談の要旨とビデオ(日本語)へのリンク

なお、以上の(2)と(3)から、40人のインタビューの要旨を選んで収録した冊子『40インタビュー・40周年ブックレット』(上の写真参照)が、先日ケベック州政府在日事務所より発行されました。(宮尾)。

## 日本とケベックでのインタビューの抜粋（40周年ブックレットより）



### クロード＝イヴ・シャロン・州政府在日事務所代表の挨拶

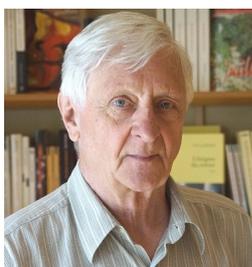
皆様、この度開設40周年を迎えたケベック州政府在日事務所は、ケベック州と日本との友好関係の深化と発展のため、活動を続けて参りました。ケベック州政府在日40周年を、誇りをもって皆様とともに祝いたいと思います。

日本とケベック州間の歴史におけるこの重要な段階では、ケベック州の活動の重要性を日本各地に広げ、関係を強化し、ケベック州の揺るがない決意を示していきます。（中略）このブックレットの読者の皆様が、日本とケベック州との関係の豊かさを発見し、ケベック州政府在日事務所の40周年に関わる色々な行事に参加していただければ幸いに存じます。



### 小畑精和・明治大学教授とのインタビュー

（前略）ケベックでの研究の後、帰国してから「新日本文学」や「千年紀文学」を始め色々な雑誌にケベックに関する記事をたくさん書きました。また、1960年代の「静かな革命」を代表するジャック・ゴドブーの小説『やあ、ガラルノー』など、いくつかの作品を日本語に翻訳しました。さらに明治大学では、アメリカ文学研究という授業の中で、もっぱらケベックについて教えることも始めました。それらの活動が認められ、1998年にケベック州政府より、アメリカ地域でのフランス語の普及功労章を受章しました。さらに2003年にはそれまでの研究をまとめた著書『ケベック研究』を出版し、カナダ首相出版審査員特別賞もいただきました。



### ジャック・ゴドブー氏とのインタビュー

（前略）日本は広島と長崎の原爆投下によって苦しみましたが、そのときに私の心は深く傷つけられ大きく影響されました。その後、私たちは詩を通じた文学の世界で日本を学び、特に俳句などの日本の詩を研究しました。また日本の映画を見ました。したがって、私たちは何よりも文化芸術を通じて、日本に対して目を開かれたといえます。

しかしながら、それでもまだ一般的な文化交流に過ぎませんでした。その後小畑精和明治大学教授が、私に会いにケベックまで来られました。その意図は私の『やあ、ガラルノー』を日本語に翻訳するということでした。これは60年代に書いた小説で、ケベックでもまたフランスでも大変評判になったものです。



### 高畑勲（スタジオジブリ）アニメ映画監督とのインタビュー

フレデリック・バック氏との出会いは、まず作品だったのですが、1982年に私がロサンゼルスに行ったときに、バック氏のアカデミー賞受賞作品『クラック！』を見てすっかりファンになってしまいました。実際にお会いしたのは、その次の作品『木を植えた男』で、それが広島のアニメーション・フェスティバルでグランプリを取られバック氏が来日した際に、東京でインタビューをしたりしてお話をうかがい、ついでにスタジオジブリまで来ていただきました。

その後、私がカナダに伺い、バック氏がずっと植林をされている場所まで行って、一緒に木を植えたこともあります。また、氏が群馬県で行われた全国植樹祭で講演されるので、奥様と一緒に来日された際も、ずっとお伴をさせていただきました。（後略）



### フレデリック・バック氏とのインタビュー

（前略）最初に日本に招待されたのは、広島での国際アニメーション・フェスティバルでした。そこでアカデミー賞を受賞した『木を植えた男』がグランプリを獲得したのです。この広島でのフェスティバルへの参加は本当に名誉なことでした。この訪問が後にどれだけ大きな影響を私に与えるかは、その時には知る由もありませんでした。レーザーディスク・プロジェクトも実現し、『クラック！』と『木を植えた男』についてのイラスト本も出版されました。私の東京への最初の訪問の際に受けた歓迎ぶりは、本当に信じられないものでした。

日本人のあらゆる細部の表現にこだわる我慢強さと洗練さにはただ驚愕するばかりです。日本のあらゆる芸術にいえませんが、表現したいものをシンプルにすること、また日本の素晴らしい寺院に見られるように構築物のどの部分もデザインのどの部分も洗練されていることに気づきます。さらに日本では、そのような移ろいやすくはかないものを何とか保っていこうとする配慮が払われています。実際それらを、極端に破壊的な地震にさらされた国で、何百年も何千年も維持していかなければならないのですから。

## AJEQ研究会報告

### AJEQ研究会報告 (3/9) 廣松・柴野両会員の発表

日時：2013年3月9日（土）17：00～18：30

会場：立教大学 池袋キャンパス 本館 1201教室

発表：（1）（17：00～17：30）

DVD解説「Dany Laferrière作 Comment conquérir l'Amérique en une nuit.」

廣松勲会員（（独）日本学術振興会特別研究員 PD、慶應義塾大学総合政策学部訪問研究員）

（2）（17：30～18：30）

研究発表「ケベックのオートマティストー『全面拒否（Refus Global）』とその背景—」

柴野宣子会員（早稲田大学文化構想学部4年）

前半には、ラフェリエール監督・演出・脚本の映画作品『一夜にしていかにアメリカ大陸を征服するか』を廣松会員の解説付きで約20分間観賞した。ラフェリエール出世

作である小説『ニグロと疲れないでセックスする方法』と通じるテーマを扱っているが、本作品ではモンリオールにおける移民・亡命者たちの文化的な同化・異化を描き出すことにより焦点が当てられている。

後半では、柴野会員が最近早稲田大学に提出した卒業論文研究をもとにした発表があった。1940年代に活躍したケベックの前衛芸術家集団オートマティストは、1948年に『全面拒否』を発表した。保守的なケベック美術界の在り方を告発し、より自由な芸術表現を求めたこのマニフェストは、当時のケベック社会そのものを批判するものとして、メディアによる強い批判にさらされた。本発表では、『全面拒否』発表にいたった経緯、マニフェストの内容、今日のケベックでの評価を紹介することにより、彼らの行動が「静かな革命」に先行するものとしての意義を持つことを示した。（小松祐子）

### AJEQ研究会報告 (12/8) 長谷川秀樹会員の発表

日時：2012年12月8日（土）17：00～18：30

会場：立教大学 池袋キャンパス 本館 1201教室

発表テーマ：「ケベックとフランコフォニー」

長谷川会員による研究発表が行われた。国際組織としてのフランコフォニーの成立後期に見られたケベックとカナダ連邦との間の葛藤を、詳しい調査に基づきわかりやすくまとめた発表であった。

長谷川氏は、フランコフォニーの成立期を、Esprit誌特集号でサンゴールがフランコフォニーについて言及した1962年10月から、ACCT発足の1972

年3月までとし、なかでもガボン会議（1968年2月）以降を成立後期と定義した。

同氏はこの成立後期をさらに4つに区分して、ケベックとカナダ連邦の関係を検討した。（中略）

アフリカ諸国とケベックとの間の利害の一致によりフランコフォニー設立計画が進んでいたところへ、カナダ連邦の参加により事情が複雑化し、ケベックとカナダのあいだの対立が深まっていった過程、フランスおよび他のフランコフォニー諸国の反応、両者の歩み寄りまでの事情が詳述された。（小松祐子）

### 後記

本号の巻頭言にもありますように、今年はケベック州政府在日事務所開設40周年に当たっています。そこで今年3回発行予定のNLでは、この40周年記念の特集をシリーズで取り上げる予定です。AJEQの会員の皆様も、ご自分とケベックとのかかわりについて、これまでの10年、20年、30年、あるいは40年全体を振り返って、今あらためて感じられること、また今後についてお考えになっていることなど、何でも結構ですので、原稿をNL編集部(AJEQ広報委員会)までお寄せください。どうかよろしく願いいたします。山出、宮尾

#### AJEQ ニュースレター

年3回発行  
 発行人・小倉和子  
 編集人・山出裕子  
 日本ケベック学会

#### AJEQ ホームページ

日本でのケベックおよび  
 フランコフォニーに関する  
 学術研究・芸術文化交流を  
 振興し推進する学会のHP

#### 日本ケベック学会(12年10月～)

●主要役員 広報委員会  
 小倉和子（会長） 山出裕子  
 竹中 豊（副会長） 小松祐子  
 立花英裕（副会長） 安田 敬  
 小畑精和（顧問） 宮尾尊弘  
 クロード＝イヴ・シャロン（顧問）

\*シャロン氏は、ケベック州政府在日事務所代表。